

新収蔵品紹介



備前 扁壺花生

江戸時代初期

総高 25.5cm

室町時代後期から桃山時代にかけて茶の湯が盛んになると、備前焼は茶人に愛好され、全盛時代を誇ったが、江戸時代にはいとやがて施釉陶磁器に押されて衰退への道を余儀なくされた。このため生き残りをかけてさまざまな工夫と努力がはらわれた。水簸したきめ細かい粘土を使った作品の表面に友土または黄土の泥漿を塗り付けて焼いた伊部手と呼ばれる作品が作られるようになったのもこのころからである。伊部手の作品は施釉陶のような感じを与え、施釉陶磁器に対抗するため工夫された手法と考えられているが、伊部手の手法による細工物や施釉した白備前・色備前、低温で素焼きし彩色した彩色備前などが作られるようになったのもまたそのころからであった。

この花生は初期の伊部手の作品で、胴部は扁壺、首部から口部を徳利状に作り、底部には高めの角形の台を付けている。底には○印の窯印がある。胴部には白色土を用いて片方に雁8羽と月、他方は中央に蕨手、上部に桜花をあしらっている。この花生の箱書には「古備前象嵌扁壺花生」とあるが、箱書をした人が象嵌とみたのは実は白色土で作った雁や月・蕨手・桜花を器壁に穿った浅い溝に張り付けて焼いたもので、象嵌というには難があるといわざるをえない。象嵌をとって「扁壺花生」としたほうが妥当といえよう。しかし、備前焼で異色の粘土を使って文様をあしらった作品はほかにその例が知られておらず、また同形の作品も伝世品は極めて少ない。この花生は備前焼が生き残りをかけてさまざまな工夫と努力を重ねてきた時代のもので、備前焼の歴史をみるうえで極めて貴重な作品であるといえよう。

[平成7年度事業報告]

特別展

水と暮らし

平成7. 10. 28~11. 26

水は、生命誕生の源であり、人間の暮らしにとって欠くことのできないものである。人類が地球上での営みを始めて以来、水は人間の歴史に直接深く関わってきた。

本年度の特別展は、水のあることを当り前のこととして、何も疑うことのなかった現在の生活から、もう一度水の大切さを認識し、水の果たしてきた役割を見つめ直し、歴史の中で人々の生活とどのように関わってきたのかを考えようとして、展示を構成した。

1 飲料水としての水……「いのちの水」

木をくり貫いた弥生時代の井戸杵（浜松市博物館）をはじめ、杵を円筒型や井桁に組んだり、底に曲げものや備前焼・亀山焼を埋め込んだりした井戸など、さまざまな形態がある。戦国時代の武将朝倉氏館跡から出土した釣瓶と滑車（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）をはじめ、広島県草戸千軒町遺跡・県内遺跡の発掘成果を中心に紹介した。

高松・赤穂・名古屋などの城下に注目し、出土した木樋や城下地図などの資料を紹介した。また、弥生時代の岡山市の百間川遺跡からは、壺（岡山県古代吉備文化財センター）などが出土し、水との結びつきを物語っている。水を求める人々の願いは、時代を超えて今日と共通したものが感じられた。



頭上に甕をのせた女性の埴輪
（栃木県真岡市鶏塚古墳出土 東京国立博物館）

2 治水と利水……「むらと水・まちと水」

ここでは、岡山藩の百間川放水路工事や鳥取藩の洪水対策を示す資料を展示した。また、岐阜県の本巣・長良・揖斐川河口に広がる輪中地帯での宝暦治水工事から、三川分流工事にいたるまでの人々の苦労のようすを紹介した。

中世の荘園制のもとで、用水をめぐる争論が繰り返されるのは、珍しいことではない。重要文化財の東寺百合文書のうち山城国桂川用水差図・井手取水口差図（京都府立総合資料館）は、15世紀頃の桂川からの取水争いを物語る貴重な資料である。県内からは十二ヶ郷用水・八ヶ郷用水・倉安川などを、またため池による灌漑として、香川県の満濃池を取り上げた。

3 水と産業……「やくだつ水」

ここでは、紙漉き・鉄穴流し・弁柄を例にとって水と産業との密接な関係を考えて。「たたら製鉄（砂鉄製錬）」の原料の砂鉄は、流水を利用した「鉄穴流し」によって採取されたため、中国地方各地の河川の流域では、濁水が発生し、たびたび訴訟にまで発展した。公害問題ともなった河川の濁水問題は、今日的な課題をも提起している。また、水は動力水車の動力源としても利用されてきた。江戸時代中期以降には、杵・臼と結合した水車が考案され、県下でも幅広く活用された。しかし、近代的な原動機の登場により、基本動力源としての役割を終えた。

4 水と信仰……「水へのいのり」

今回紹介した静岡県大谷川の旧流路からの出土遺物（静岡県埋蔵文化財調査研究所）は、古墳時代から鎌倉時代にわたるもので、水辺の祭祀の変遷を物語る資料である。

降雨・止雨を願うとき、人々は絵馬や歌舞を神仏に奉納したり、儀式をとり行ったりした。静岡県伊場遺跡からは、止雨を祈願したと思われる呪文を書いた木簡や、わが国で最古級といわれる絵馬が出土している（浜松市博物館）。また、岸和田市夜疑神社の絵馬は、江戸時代終わり頃の雨乞い行事を描いた珍しい資料として、注目された。

展覧会期間中の11月3日（金）文化の日には、奈良大学学長水野正好氏による「井戸の文化史」と題する記念講演会を本館講堂で開催した。



特別展記念講演会

主な展示資料

1 飲料水としての水…「いのちの水」

(1) 井戸

井筒 静岡県梶子遺跡出土 浜松市博物館
井筒 岡山市鹿田遺跡出土
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
組木井戸枠及び曲物井筒
静岡県宮竹野際遺跡出土 浜松市博物館
曲物井筒 倉敷市上東遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
美濃織部滑車 サントリー美術館
滑車 福井県朝倉氏遺跡出土
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
釣瓶 同上 "

(2) 水道

赤穂城本丸内水筋絵図 兵庫県立赤穂高等学校
赤穂城内水筋絵図 赤穂市史編さん室
赤穂城下給水樋(伊部焼) 赤穂市立歴史博物館
赤穂城下水道間数改帳 個人
新井戸水本並水掛惣絵図写
鎌田共済会郷土博物館(坂出市)
名古屋旧巾下水道図 名古屋市鶴舞中央図書館
幅下小学校出土資料のうち木製樋 名古屋博物館
名古屋城下水路刻印石 "

(3) 汲む・運ぶ・溜める

甕 岡山市百間川米田遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
木製釣瓶 津山市美作国府跡出土 "
柄杓 福山市草戸千軒町遺跡出土
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
頭上に甕をのせた女性の埴輪
栃木県真岡市鶏塚古墳出土 東京国立博物館
頭上に甕をのせた女性の埴輪(残欠)
群馬県佐波郡赤堀村出土 "
須恵器提瓶 岡山市百間川原尾島遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
備前焼大甕 吉井町茶臼山城跡出土
岡山県吉井町教育委員会
朱漆塗足付手洗い サントリー美術館
汲み出し桶 岡山県和気町歴史民俗資料館
水渡し甕 政田民俗資料館(岡山市)

2 治水と利水…「まちと水・むらと水」

(1) 治水

百間川絵図(旭川東部絵図) 岡山大学附属図書館
上道郡沖新田開墾絵図 "
嘉永三年高梁川洪水絵図 個人
因幡国高草郡野坂川絵図 鳥取県立博物館
油嶋嶮邊塚絵図 個人
薩摩藩御手伝普請目論見絵図 "
濃勢尾州川通村々領土地頭色分絵図 岐阜県歴史資料館
高須輪中堤外村々開発之絵図 "
木曾川下流改修計画図 "
普請絵巻 平塚市博物館
出し堤絵図 "

(2) 利水

満濃池樋門修築普請絵図 個人
満濃池水掛り村々絵図 "
満濃池樋門修築普請絵図 "

倉安川用水絵図 岡山大学附属図書館
鬼武十蔵包孝伝書 山口県文書館
萩城下絵図 "
備中国賀陽郡湛井川用水掛り之事 個人
八ヶ郷用水路絵図 "
酒津井手川始まり覚 "
◎東寺百合文書のうち 山城国桂川用水差図案
京都府立総合資料館
◎東寺百合文書のうち 山城国桂川井手取口差図 "
陶製水神像 本江八幡神社(石川県小松市)
合子(水時計) 犬上川沿岸土地改良区(滋賀県)
香時計 政田民俗資料館(岡山市)
ごい(水かき揚げ木製器具) 滋賀県教育委員会
すっぽん(揚水器) 岡山県立博物館
農具便利論 岡山大学資源生物科学研究所

3 水と産業…「やくだつ水」

(1) 紙漉き

和紙製作用具 岡山県立博物館

(2) 鉄穴流し

東城・西城川筋鉄穴持主運上口数覚 個人
奴可郡東城川筋十八ヶ村鉄穴順路 "
上斎原村絵図 "
鉄穴規定書之事 "

(3) 弁柄

弁柄製造の図 個人
弁柄製造工程絵巻 "
弁柄商店引札 "
弁柄製作用具 岡山県立博物館
弁柄屋仲間議定書之事 個人

4 水と信仰…「水へのいのり」

(1) 水辺の祭祀

祭祀遺物 人形木製品ほか 岡山市百間川原尾島遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
線刻絵画土器 岡山市足守川加茂A遺跡出土 "
線刻絵画土器 岡山市天瀬遺跡出土 岡山市教育委員会
呪符 岡山市百間川今谷遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
静岡県神明原・元宮川遺跡出土遺物
静岡県埋蔵文化財調査研究所
静岡県伊場遺跡出土遺物 浜松市博物館
人面墨書土器 静岡県梶子遺跡出土 "
墨書土器 杯 高槻市嶋上郡衙跡出土
高槻市立埋蔵文化財調査センター
舟形木製品 福山市草戸千軒町遺跡出土
広島県立歴史博物館

(2) 雨乞い

絵馬 静岡県伊場遺跡出土 浜松市博物館
絵馬 静岡県神明原・元宮川遺跡出土
静岡県埋蔵文化財調査研究所
絵馬 岡山市津寺遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
絵馬『黒馬図』 阿智神社(倉敷市)
△絵馬『雨乞い図』 夜疑神社(岸和田市)
○木造 鬼面 安養寺(岡山県和気町)
滝宮念仏踊 団扇・衣装ほか 瀬戸内海歴史民俗資料館

◎は重要文化財、○印は県指定重要文化財、△印は市指定重要文化財を示す。

栄西とその生涯

平成7. 4. 29～5. 28

栄西は平安時代末期に備中・吉備津宮（現吉備津神社）の神官の子として生まれ、11歳のとき賀陽郡安養寺の僧静心に師事した。13歳で比叡山へ登って天台密教を学んだのち、仁安3年（1168）に入宋、たまたま先に入宋していた俊乗房重源と出会い、二人で天台山万年寺、さらに阿育王山へ詣でたのち、滞在半年で重源とともに帰朝した。帰朝後の栄西は備前の金山寺（岡山市）や日応寺（同）、備中の清和寺（芳井町）で修行及び伝法に努めたが、安元元年（1175）ごろから一切経を入手するため筑前今津（現福岡市）の誓願時に滞在、密教に関する多くの著述を行なった。同寺にあって源平合戦を避けたのち、文治3年（1187）に宋を経てインドへ赴き「西天の八塔」を礼することを目指して再び入宋した。しかし、「北蕃強大」でインドへの交通がふさがれていたため、素志を抑えて天台山万年寺へ入り、次いで天童山に登って4年間にわたって臨済禅を修めて帰朝した。着船した平戸（長崎県）や博多で禅の修行及び布教に努めたのち、鎌倉へ下り頼朝夫人政子の帰依を得て寿福寺を創建、また2代将軍頼家から京都に寺地を賜って建仁寺を開き、晩年は京都と鎌倉の間を往復しながら禅の布教に努めた。この間、『興禪護国論』を著して比叡山の論難に答え、また3代将軍実朝へ『喫茶養生記』を書き与えた。前者はわが国における禅宗思想の最初の体系的な撰述であり、後者は同じく喫茶の定着と普及の緒となった。

本展示では、栄西の書簡・著述及び栄西と親交のあった重源や明恵（京都・高山寺の僧）の関係資料、栄西が修行したり、創建した寺院の資料などにより臨済宗の開祖としての栄西の足跡を紹介するとともに、現在も建仁寺で行なわれている茶会で、栄西が中国から伝えたといわれる来客接待のための四頭茶会を取り上げ、茶祖としての栄西についても紹介した。なお、本展示は毎年4月に後樂園で行なわれている栄西茶会50周年に協賛して実施したものである。

主な展示資料

	◎重要文化財
栄西禅師像（複製）	岡山県立博物館
造東大寺大勧進栄西書状	奈良市 大和文華館
絹本着色栄西禅師頂相 絶海中津賛	京都市 両足院
元亨釈書 寛政版	岡山大学附属図書館
◎備前国金山観音寺縁起写	岡山市 金山寺
安井寺縁起	芳井町 清和寺
誓願寺孟蘭盆一品経縁起（複製）	岡山県立博物館
法華経入真言門決序 栄西真蹟	京都市 建仁寺

法華経注釈切 栄西真蹟	京都市 両足院
聖福寺建立申状拓本	京都市 建仁寺
教時義勘文 写本	京都市 両足院
菩提心論口訣 元禄版	〃
天童山千仏閣記 写本	〃
興禪護国論 寛文6年（1666）写	〃
興禪護国論 附未来記 寛文版	京都市 正伝永源院
出家大綱 寛政版	〃
日本仏法中興願文 寛政版	〃
円頓三聚一心戒 写本	京都市 両足院
霊松一枝 附入唐縁起	〃
日本禅宗始祖千光祖师略年譜	〃
絹本着色源頼家像	京都市 建仁寺
鎌倉右大臣家集（金槐和歌集）写本	岡山大学附属図書館
東鑑（吾妻鑑） 寛永版	〃
行勇禅師真蹟	京都市 建仁寺
◎紙本着色八坂塔絵図	京都市 法観寺
◎明恵筆消息	京都市 建仁寺
紙本着色明恵上人像（複製）	京都市 高山寺
大唐天竺里程書（複製）	〃
漢柿型茶入（複製）	〃
梅尾明恵上人伝記 宝永版	倉敷市 宝島寺
◎金山寺住僧等解并東大寺重源外題	岡山市 金山寺
喫茶養生記 寿福寺本断簡一紙	個人
喫茶養生記 多和文庫本	香川県 多和文庫
喫茶養生記版木	京都市 両足院
四頭茶会諸道具	京都市 建仁寺
紙本墨画虎図・龍図 秋月等観筆	〃
絹本着色栄西禅師頂相	〃
花卉鳥獸螺鈿前卓（まえばい）	〃
楼閣人物螺鈿卓	〃
三つ足千鳥型青貫青磁大香炉	〃
三つ具足 獅子香炉・花器・燭台	〃
天目茶碗・天目台	〃
縁高（ふちだか）・縁高台	〃
曲盆（まげぼん）	〃
浄瓶（じんびん）	〃
座牌（ざはい）	〃



展示風景

テーマ展

むかしの旅

平成7. 7. 27～9. 3

旅は日常の生活から解放され、未知の世界へ移動することである。人々は旅に憧れ、旅先での見聞は新鮮な感動を生み、また旅人により貴重な情報や新しい文化が伝播された。しかし、むかしの旅は様々な制約のもとに展開され、自由な往来は許されず、いろいろな危険を伴ったものであった。

近代的な交通機関が発達した現在、旅の様相は一変したが、この展覧会ではむかしの旅を振り返ることにより、旅の原点を考えようとした。また、会期中の8月26日(土)には関連事業として、県内の小学生親子を対象とした「夏休みこども歴史教室」を開催した。約30組の参加者とともに近世山陽道周辺の史跡を訪ね、宿場町の面影を残した矢掛の町並みや旧本陣などを見学した。

主な展示資料

- | | |
|------------------|---------------|
| 津高駅家(富原廃寺)出土瓦 | 岡山県立博物館 |
| 小田駅家(毎戸遺跡)出土瓦 | |
| | 岡山県古代吉備文化センター |
| 高月駅家(馬屋森向遺跡)出土瓦 | 〃 |
| 那智参詣曼荼羅 | 個人 |
| 池田綱政公御道之記 | 岡山大学附属図書館 |
| 道中日記 | 〃 |
| 拾万石御加増後初御入国御供立之図 | 津山郷土博物館 |
| 大名駕籠 | 〃 |
| 毛槍 | 〃 |
| 矢掛宿絵図 | 個人 |
| 矢掛宿本陣関札 | 〃 |
| 宿方休泊留 | 〃 |
| 矢掛宿人馬賃銭割賦帳 | 〃 |



夏休みこども歴史教室(矢掛町東三成)

- | | |
|--------------|-----------|
| 薩州様道中風呂 | 個人 |
| 藤井宿家割図 | 〃 |
| 備前国往還筋絵図 | 〃 |
| 出雲往来絵図 | 〃 |
| 関所手形 | 岡山大学附属図書館 |
| 宗門往来手形 | 〃 |
| 度々御触書写 | 津山郷土博物館 |
| ○絵馬「おかげ参り図」 | 牛窓町・牛窓神社 |
| 絵馬「伊勢参詣図」 | 芳井町・八幡神社 |
| 東海道五十三次風俗図屏風 | 岡山県立博物館 |
| 旅行用心集 | 個人 |
| 懷宝道中図鑿 | 〃 |
| 道中用具 | 岡山県立博物館 |
| 伊勢参宮道中記 | 個人 |
| 金毘羅参詣名所図会 | 〃 |
| 浪花講帳及び同版木 | 〃 |
| 新撰伊勢道中細見記 | 岡山市立中央図書館 |

普及事業

博物館講座

本年度の博物館講座「岡山県の歴史と文化」は、次の内容で実施した。講座内容では、備前牛窓の歴史と産業に関するテーマが多く設定されたことから、現地見学会も牛窓町を訪ね、弘法寺・本蓮寺・牛窓神社・海遊文化館等を拝観した。

テ	マ	講 師	開 講 日
吉備の前方後円墳	岡山県古代吉備文化財センター文化保護主任	宇垣匡雅	5/26 (金)
日本刀の姿と刃紋の変遷 -備前・備中刀の中心に-	三門美術刀剣研究会主宰	中津勝己	
日蓮宗の瀬戸内への弘通と牛窓	学芸員	中田利枝子	6/2 (金)
中世瀬戸内の商品流通と港町 -牛窓を中心として-	学芸課長	竹林栄一	
瀬戸内海と牛窓の造船	主 査	上林栄一	6/16 (金)
朝鮮通信使と牛窓	総括学芸員	加原耕作	
現 地 見 学 (牛窓町内の史跡)		本館職員	6/23 (金)
中国山地の産業史 -木地師と塗師-	学芸員	田村啓介	6/30 (金)
浦上玉堂の世界	岡山県立美術館主任学芸員	守安 收	

[平成7年度購入資料]

- 備前 扁壺花生 1点
- 版本「喫茶養生記」 1冊
- 版本「地藏菩薩利生記」 1冊
- 法然上人絵伝(複製) 2巻
- 官板実測日本地図(複製) [畿内東海東山北陸篇] 1舗
- 三角縁神獸鏡(複製) 1面

[平成7年度寄贈資料]

- 備中国巡覧大絵図 1舗 岡山市 笠原 圭二
- 甲冑加留多綴二枚胴具足 三十二間筋兜付 1領 岡山市 綾 保子
- 養心流柔術免許状・竹内流免許状 各1巻 岡山市 藤原 節男
- 水漉し甕 2口 岡山市 川間 昌徳
- 備前焼 1石入大甕 1点 岡山市 津島 絢子
- こたつ 1点 " "
- 携帯用提灯 1点 岡山市 難波 克己
- 山水図 1幅 倉敷市 中村 幸子

平成8年度事業のお知らせ

○「岡山県の歴史と文化」

- 春季展 平成8年3月16日(土)～6月23日(日)
- 夏季展 6月27日(木)～9月8日(日)
- 秋季展 9月12日(木)～10月13日(日)
- 冬季展 11月23日(土)～平成9年1月12日(日)

考古・美術工芸・文書・民俗・刀剣・備前焼の各分野にわたって、岡山県の歴史と文化を紹介する。なお、随時展示替えを行う。

○特別展

「歴史を彩る人々－岡山の古代・中世－」

平成8年10月19日(土)～11月17日(日)

瀬戸内海に面し、気候・風土に恵まれた岡山県は古来多くの人材を生み、育んできた。政治・経済・文化などさまざまな分野で活躍し、わが国の歴史に名前を残した人々も多い。また、備前・備中・美作国の歴史に深く関わって名前を知られる人々もいる。

この展覧会は、これら岡山県が生んだ、あるいは岡山県内で活躍した歴史上の人物を取り上げ、関係資料を展示して、その人物像や業績を紹介しようとするもので、郷土の先人をまとめて取り上げるのは今回が初めてである。今年度は古代から中世の時期の人々を取り上げたい。

○テーマ展「中国山地の暮らし」

平成8年6月27日(木)～8月4日(日)

中国山地一帯では、豊富な山林資源を活用した製材・木

炭製造業のほか、たたら製鉄(砂鉄製錬)・木地挽・和紙・養蚕・畜産業など独特の山地産業が展開され、地域の開発に大きく貢献した。しかし、戦後の高度経済成長を契機として在来産業は衰退し、激しい人口流失とともに極端な過疎化が進行した。

この展覧会では、消滅していった中国山地での作業に関する各種の資料と、その地域で展開された祭礼などの年中行事を通して、そこに暮らした人々の生活の足跡をたどろうというものである。

○テーマ展「むかしのメディアー情報をどう伝えたかー」

平成8年8月8日(木)～9月8日(日)

現代社会は、高度情報化社会といわれている。テレビ・ラジオなどの映像や音声をはじめ、新聞・雑誌などの活字を中心としたマスメディアなどを通して大量の情報が一度に伝達され、日々の生活の中にあふれている。このような社会にあっては、多くの情報の中から正確なものを選択し、真実を見極める冷静な判断力が要求されている。

今回の展覧会では、現代ほど多くの情報のない時代に、人々がどのようにして情報を手にいれ、伝えていたのかを探り、情報伝達の方法を歴史的にとらえてみたい。

○国立博物館・美術館地方巡回展

平成9年1月18日(土)～2月16日(日)

この展覧会は、平成6年度から文化庁の主唱により、国立博物館・美術館等の所蔵作品を効果的に活用し、地域住民の観賞機会の充実及び近代・現代美術の振興並びに文化財の啓蒙・普及を図る目的で実施されている。出品作品には、国宝や重要文化財をはじめ、近代の著名な作家や教科書等に掲載されている作品等を展示する。

なお会期中に、各分野の専門講師を招き、講演会及びシンポジウムを開催する。

○博物館講座「岡山県の歴史と文化」

平成8年5月24日～6月21日の毎金曜日

博物館の普及活動の一環として、一般社会人を対象に受講者を募り「岡山県の歴史と文化」をテーマとした歴史講座を開講する。

岡山県立博物館だより

No.46

発行日 平成8年3月31日

発行者 岡山県立博物館
館長 中力 昭
岡山市後楽園1-5
☎(086)272-1149